

補正予算の概要

第1回定例会では27年度予算の審査に先駆けて25億6207万円の平成26年度一般会計補正予算（第7号）をはじめ7特別会計の補正予算が提出され、3月5日に補正予算特別委員会で審査し、可決しました。

補正予算の主なものは、国の緊急経済対策事業費を活用したプレミアム付商品券の発行・土地開発基金廃止に伴う財政調整基金への積み立て・乳幼児等医療費の助成対象を中学校卒業まで拡充・7橋の補修・長寿命化・市債の繰り上げ償還の増額や事業費の減額による減額補正、さらには40件の事業を翌年度に繰り越すなどの提案です。

ここでは、補正予算特別委員会での主な質疑の内容を紹介します。

補正予算特別委員会（質疑の抜粋）

中心市街地の活性化事業

Q 中心市街地活性化事業では、新規事業者が対象だが世代交代を行う際の事業も加える必要があるのではないか。

A 空き店舗対策を目的にしているが、新年度からは起業化支援等とあわせ事業継続にも取り組む。

空き家改修費等補助事業

Q 空き家バンクの登録状況や対象物件はどうか。購入時の補助制度はないのか。

A 現在の登録数は15件

で、今回の補正の対象物件は11件である。定住を目的とした購入時の支援制度の拡大は今後検討する。

Q 「ふるさと納税者」への情報提供をしてはどうか。

A 「ふるさと納税者」から口コミで広がることも考えられるので、定住対策の情報提供を検討したい。

中山間地域未来創造事業

Q 久井地域及び大和地域の公共施設（宇根山天文台、道の駅よがんす白竜等）を核とした観光交

流や誘客、周遊促進につなげるよう、周辺の環境整備を行うとあるが、どのように捉えればいいのか。道中の倒木等の危険箇所についても整備されるのか。

A 今回の予算は、旅行村の景観維持、またイノシシ等の有害鳥獣対策ということ、旅行村周囲の草刈り及び防護柵を設置する費用である。

道中の危険箇所を含めての経費は見込んでいないが、観光客又は地域住民の安全対策といった面も含め関係部署と連携を図っていく。



周辺の環境整備を行う 宇根山家族旅行村

地産地消推進モデル事業

Q 大量の食材が求められるが、生産者側にとっては運搬コストが課題になっていると聞いてい

る。ただし、地産地消を推進するという観点で言えば、運搬費だけの問題ではないと考えているがどうか。

A 農産物運搬の現状は、J A中央とJ A三原、久井の法人が直接搬入をしている。

献立にあわせた産地の育成も必要になるし、品質の規格の指導等もある。この問題については、J Aに生産者の指導等にあたっていたかどうかというお願いしたいと考えている。

木造住宅耐震改修事業

Q 木造住宅の耐震改修の減額ということだが、この制度をつくって各年

度実績が何件あったのか。

また、耐震化率90%を目指すということで現計画でやっているが、これまでの総括をどのようにし、新計画につなげていくとしているのか。

A 木造住宅の耐震改修の利用件数は、平成24年1件、25年が2件、26年が1件の計4件となっている。本市においても耐震化が進んでいない状況である。

次期計画策定の中で、現状の目標の検証、新たな目標設定などを策定していきたいと考えている。

国民健康保険特別会計

Q 今回の補正予算には平成25年度の決算剰余金1億6千万円が計上上だと思いが計上すべきではないか。

A 医療費などの支出の増加がないので計上しない。今回の補正は財源の組替であり、基金取崩しの減額で対応できるように、決算剰余金は計上していない。